

2018 年度活動報告 学部授業：日本語Ⅰ～Ⅳ（総合政策学部）

牲川 波都季（関西学院大学総合政策学部）

藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. 授業の目的

学部正規留学生 1・2 回生を対象に、1 週間に 2 コマ、【読む・書く】【話す・聞く】の技能を扱う。目標は、実際の日本語運用を通して、アカデミックなことばの力（ことばを用いて自らの問題と解決方法を見つけ出し、それらを他者とともに考えていく力）を身に付けるとともに、日本語を使うことへの自信と意欲をもてるようになることである。また、他の留学生との関わりを深めることも重視している。

2. 授業内容

【読む・書く】

日本語Ⅰ・Ⅱ：「大学生活でやりたいこと」を巡り、書評・議論を経てレポートを執筆

日本語Ⅲ： 研究関心について、問題意識を明確化するためのレポートを執筆

日本語Ⅳ： 各自の研究関心に沿った学術論文を紹介・発表し、質疑・共有

【話す・聞く】

日本語Ⅰ：グループごとにテーマを設定し、アンケート調査を行い、結果を発表

日本語Ⅱ：意見文をもとに、問題の背景などを調べ、レジュメにまとめて発表

日本語Ⅲ：社会問題を扱った映像を視聴し、ディスカッションを行い、意見発表

日本語Ⅳ：ディベート

3. 成果と今後の課題

【読む・書く】

この新シラバスでの授業内容も 3 年目となり、今年も学生個々の生活上・勉学上の関心と日本語運用能力の育成とを関連付けレポート作成等を行った。日本語Ⅰ・Ⅱについては志望理由書的な一般論を越える難しさ、日本語Ⅲ・Ⅳについてはクラスメートの研究関心に対する興味の喚起が課題として残り、さらなる改善を図りたい。

【話す・聞く】

グループ活動を多く取り入れ、話し合いや協働の機会を作ることにより、相手にわかりやすく伝える力や意見を調整する力の育成を目指した。情報収集については、細かい部分の正確な理解、情報発信については、「事実と意見を分ける」「他者の意見と自分の意見を区別して述べる」などに課題が残ったため、次年度の課題としたい。